

小岩市川関所(東京都江戸川区北小岩)

小岩市川関所(こいわいちかわせきしよ)は、現在の東京都江戸川区北小岩にあった関所である。佐倉道(水戸佐倉道)に設置された。

概要

1616年(元和2年)、江戸幕府により小岩と対岸の市川を結ぶ江戸川の定船場(小岩市川渡し)に番所が設けられ、万治年間(1658年-1661年)に関所となった^[1]。「諸国御関所書付」によれば、小岩市川関所は、房川渡中田関所、金町松戸関所、小仏関所、新郷川俣関所に並ぶ重要な関所とされ^[2]、関所を通るには名主の発行した手形や通行証明書が必要であった^[3]。関所では陸路の「入鉄炮に出女」だけでなく、船の往来も監視した。1869年(明治2年)に関所は廃止され、1904年(明治37年)に小岩市川渡しは廃止された。

御番所町

小岩市川関所の設置された付近は、佐倉道と元佐倉道が合流し、岩槻街道にも接する交通の要衝で、江戸時代には御番所町(ごばんしよまち)と呼ばれた。現在の京成電鉄江戸川駅から南へ蔵前橋通りに至る道路部分が、史跡として江戸川区登録文化財となっている。

小岩・市川戦争

1868年5月24日(慶応4年閏4月3日)、新政府軍と、江原素六の率いる旧幕府軍とが江戸川両岸に対峙し、小岩市川関所付近で激しい戦闘を行った。この戦闘で旧幕府軍は敗れて中山方面に退却し、ついで船橋でも戦闘が行われた。

Wikipediaによる



京成電鉄鉄橋約50m南の江戸川河川敷の辺りに小岩市川関所はあった